

つながる 広がるちばの食育情報交換会 2015 開催要領

1 目 的

県では、平成 25 年 1 月に策定した第 2 次食育推進計画において、県民一人一人の食育の実践を進め、食育について「知っている」から「できる」そして「している」県民を増やすことを目指し、食育に取り組んでいるところです。

県民一人一人の実践を進めるためには、地域で地域の人々の生活に密着した活動を行っている「ちば食育ボランティア」や「ちば食育サポート企業」をはじめ食育に関わる幅広い関係者がつながり、活動の充実を図りながら、継続していくことが必要です。

そこで、食育に関わる関係者の情報交換を通じて、お互いの連携強化と食育活動の充実を目的に情報交換会を開催します。

2 日 時

平成 27 年 1 月 16 日（金） 13 時～16 時 30 分

3 場 所

千葉市生涯学習センター 2 階ホール

4 内 容

(1) 平成 26 年度食育推進ボランティア表彰受賞者紹介・実演
ちば食育ボランティア 板良敷信子氏（船橋市）

(2) 事例発表

- ①東金市立保育所（東金市）
- ②プロジェクト鴨川味の方舟（鴨川市）
- ③和洋女子大学（市川市）

(3) パネルディスカッション

「つながる、広がる地域に根ざした食育活動

～世代を超え、分野を超え、つながることが次へのステップ～」

コーディネーター：和洋女子大学 教授 藤澤由美子 氏

パネリスト：東金市立第 3 保育所 保育士 廣川 寿三子氏

プロジェクト鴨川味の方舟 会長 滝口 巖氏

和洋女子大学 教授 湊 久美子氏

千葉県ヤクルト販売株式会社 広報室 原 喜子氏

株式会社千葉薬品 ファーマシー営業部予防グループ 宮下 隆氏

(4) 総括

和洋女子大学 教授 藤澤由美子氏

【開催結果概要】

今年度の情報交換会は、平成 27 年 1 月 16 日（金）に、千葉市生涯学習センターのホールで開催しました。

情報交換会には、食育ボランティア、サポート企業、市町村、学校・保育所関係者、学生など 270 名の参加があり、会場はほぼ満席でした。

アンケート結果によると、参加者のほとんどが参考になったと回答しており、大変有意義な会となりました。

1 ちば食育ボランティア 板良敷信子氏による実演

※平成 26 年度食育推進ボランティア表彰（主催：内閣府）受賞

「食べることってたのしいね！」オリジナルの手作り教材を使い、子どもたちに食の大切さを伝えています。



2 事例発表① 東金市保育所の取組

「おいしく・楽しく・食べる子に」家庭や地域とつながりを深め、様々な体験を通して、子どもたちが食に興味・関心をもてるような取組を行っています。



3 事例発表② プロジェクト鴨川味の方舟の取組

風土と歴史に育まれた鴨川の美味しい味をこれからも食べ続けていけるような活動を広げ、人とまちが元気であり続けることを目指しています。



4 事例発表③ 和洋女子大学の取組

将来管理栄養士を目指す学生が、地域と連携し「食」と「農」の交流を進めています。地域の企業とのコラボによるメニュー開発や農作物の栽培・収穫・加工までを体験し、実践力を高めています。



5 パネルディスカッション

テーマ「つながる 広がる地域に根ざした食育活動

～世代を超え、分野を超え、つながることが次へのステップ～」

コーディネーター：和洋女子大学 教授 藤澤由美子 氏

パネリスト：東金市立第3保育所 保育士 廣川寿三子 氏

プロジェクト鴨川味の方舟 代表 滝口 巖 氏

和洋女子大学 教授 湊 久美子 氏

千葉県ヤクルト販売株式会社 広報室 係長 原 喜子氏

株式会社千葉薬品 ファーマシー営業部 予防グループ長 宮下 隆 氏

「連携」をテーマに、地域との連携のきっかけや苦労したこと、連携して活動するためのポイントなどについて掘り下げた。

藤澤先生からの総括では、まずは情報発信、それをきっかけに個々の食育活動が次につながり、広がっていくことが期待できる。

食育活動に関する様々な情報を蓄積することで、新たに活動を始めの方たちがその情報を参考にしたり、連携のきっかけにしたりと活用できる。情報をとりまとめ、みんなが活用できるデータベースにするところを、県が担ってくれると良いのでは。



◆アンケート集計結果◆

アンケート回答 147件 (回収率 62.0%…県職員を除く)

【情報交換会に参加した感想・意見(抜粋)】

○ヤクルト、千葉薬品の活動を聞くことができて、勉強になりました。板良敷様のプログラム実演が素晴らしく、伝える意欲、自分が楽しむ大切さがよく勉強になりました。

(40歳代女性)

○板良敷さんの行った食育実演、素晴らしかったです。楽しく、引き込まれました。少しでも近付けるように練習をしたり、私の保育園にあった働きかけができるよう力を入れていきたいと思いました。(30歳代女性・保育所)

○日本の食(和食)を守ろうとする“鴨川味の方舟”の活動は大変参考になりました。食に強い思いを持っている人たちを消費者の皆さんがどうバックアップしていくか?非常に大変なことと思います。(60歳代女性)

○和洋女子大学の取組は管理栄養士専攻の学生で次世代の食育担い手の養成として素晴らしいと感じました。鴨川の「食」をツールとしたまちの再生も、「食」を育てるではなく、「食」でつくるつなげる発想がよいと思いました。(50歳代女性・行政)

○和洋女子大学の講演を聞きましたが、市町村と他の団体の結びつきが強いことでとてもいいものができるということはとても見習うべき点だと思いました。(20歳代男性・行政)

○食育をサポートしてくれる会社を利用したいと思いました。(50歳代女性・保育所)

○企業と連携して食育活動ができることを確認しました。家庭教育学級でぜひ活用したいです。(50歳代女性・学校関係者)

○企業とのコラボは、その企業の製品のみには効果がある!他者はダメ!というようなことを言わなければ、どんどん展開させてゆけばよいと思う。行政だけでは予算の限度もあるので、民間企業との交流は貴重だと思いました。(30歳代女性)

○企業さんの参加により食育の大切さが意識され、広がっていけばいいと思います。(60歳代女性)

○食育といっても様々な伝え方があり、対象に合わせたわかりやすい方法、また興味を抱くようなやり方があるのだと学んだ。(20歳未満女性・学生)

○とても良い経験になりました。栄養学を学んでいる私たちにとって、とても重要な内容だと思います。私も農業体験やコラボに参加しているので、情報発信していきたいです。私も食育をしたくて栄養教諭を目指しているため、今後の参考にさせていただきます。様々な活動に参加したいです。(20歳代女性・学生)

○食推進員活動に通じるものがたくさんあり、参考になった。まずは自分自身が楽しく活動し、情報を発信し、仲間作りをしていきたいと思いました。(60歳代女性)

○地域、企業等団体との連携をスタートさせる、そのきっかけをどのように探したらよいか等、参考になった。(30歳代女性・行政)

○千葉県内様々な食育が行われていることを知り、違った目線で食育を考えることができました。今後のアイデアとして取り入れていきたいです。(30歳代女性・学校関係者)